

国指定史跡

萩外荘

TEKIGAI SO

[近衛文麿旧宅]

萩外荘は、大正天皇の侍医頭を務めた内科医・入澤達吉の別邸「ふうてきそう楓萩荘」として、昭和2(1927)年に建てられました。設計者は、築地本願寺などの設計で知られる伊東忠太です。

この邸宅は、昭和12(1937)年6月の首相就任以降、東京近郊に邸宅を求めていた近衛に同年11月に譲られ、元老・西園寺公望によって「萩外荘」と名付けられました。萩外荘は、近衛文麿の生活の場であるとともに政治空間としても機能し、昭和15(1940)年7月19日の「萩窪会談」、昭和16(1941)年10月12日の「萩外荘会談」をはじめとした多くの政治会談が行われています。

戦後、GHQより戦犯容疑で出頭命令を受けた近衛は、出頭期限の昭和20(1945)年12月16日、萩外荘の書斎で自決しました。

近衛の死後も萩外荘は近衛家の生活の場としてありつづけましたが、昭和35(1960)年には「応接室」「客間」を含む建物の約半分が豊島区内に移築されました。平成28(2016)年、日本の政治史上重要な会談が数多く開かれた場所であるとして、萩外荘は国の史跡に指定され、令和4(2022)年より近衛居住期(うち昭和15年～昭和16年)の姿に復原整備する工事を開始しました(令和6(2024)年に完成)。復原整備にあたっては、部材調査を行い、可能な限り古材を使用することとし、残されていた古図面や古写真などを参考に調度品や建具などの復原を行いました。